

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成30年5月29日(火)

2 委員出席者(9名)

委員長 水岸 富美男

副委員長 渡辺 淳也

委員 皆川 巖 渡辺 英機 浅川 力三 河西 敏郎 白壁 賢一

佐藤 茂樹 飯島 修

※渡辺英機委員は午後のみ、白壁賢一委員は午前のみ出席

地元議員 早川 浩 (富士吉田市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【山梨県立リニア見学センター】(都留市)

○調査内容(主な質疑)

問) この富士東部地域は、富士山が世界文化遺産に認定されてから、多数の外国人観光客が来ているという事実がある。また、今後も2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに外国人観光客の増加が予想される。

その中で、さらに外国人観光客を誘致するためにどのように取り組んでいくのか。

答) まず、受け入れ体制の強化策については、来館した外国人の皆様に満足していただくために、県で実施した展示物の多言語化、これは展示物の中で、日本語、英語、中国語、韓国語といったものが表示できるようにしている。また、指定管理者においても、パンフレット、それからホームページの多言語化を行っている。

そして、センターの職員については、接遇研修等を通じ、スタッフの外国人対応力の強化を図っている。

また、来県する外国人の誘客については、外国人向けの旅行代理店への売り込み、それから、日本政府観光局のホームページへの掲載など、外国人向けのPRを積極的に行っているところである。

さらに今年度は、新たに海外に影響力のあるブロガー等による、SNSを活用した海外への情報発信を行うことにより、強化を行っていききたい。

今後も、外国人観光客受け入れ体制を強化したセンターの魅力のPRを継続するとともに、商談会等を活用した旅行代理店への売り込みを強化するなど、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、外国人の観光客のさらなる誘客促進を図っていく。

問) ぜひ、富士北麓地域、特に富士山を中心とした外国人観光客を、少しでもリニア館に誘客できるように取り組みを続けていただきたい。

次に、今の高水準の入館者数を今後も継続的に維持していくために、どのように取り組んでいくのか。

答) このリニア見学センターは、全国で唯一、リニアが走行する姿を間近で見られる施設ということで、この強みを生かし、これまで、リニア沿線都府県の協力を得ながら、多くの

方々が集まる、やまなしリニアフェスを開催している。また、団体旅行を誘致するための観光商談会での売り込み、それから各種イベントにおけるPRといったものに努めてきた。

そして、先ほど委員から指摘があった、外国人観光客の誘客が、入館者をふやす上で非常に伸びしろがあると言える。このため、先ほど紹介した、多言語化による受け入れ体制の強化と、世界に向けての情報発信に積極的に取り組んでいきたい。

今後、リニア開業時期が近づき、さらにセンターの注目度が高まってくると考えている。この機を捉え、リニア見学センターの魅力を一層PRし、世界に発信していく取り組みをしていきたい。

問) ぜひ経済効果を都留市に大きく波及していただきたいと考えるが、このリニア館と道の駅つるをどのように連携させ、地域経済の活性化に取り組んでいくのか。

答) 道の駅つるとは、相互の密接な連携を図っているところである。例を挙げると、どきどきリニア館来館者100万人達成の際には、特別記念品として特産品の富士湧水ポークを提供いただいた。また、昨年11月3、4の両日に開催したリニアフェスでは、道の駅つるのブースを設け、特産品のPR活動等を行った。さらにその翌日、11月5日に開催された道の駅つるオープン1周年記念イベントについては、こちらからリニアブースを出展するなど、相乗効果を高めるような取り組みを行っているところである。

さらに、日ごろの運営においても、2つの施設の間でのスタンプラリーといった企画も行っており、周遊ルートを構築するなどの取り組みを行っているところである。

今後も、道の駅つる、さらには他の近隣施設との連携も視野に入れながら、地域の活性化に貢献するよう努めていきたい。

問) 資料で、指定管理者との協定についてのところに、「類似施設の開館後の入館者数の推移」とあるが、この類似施設というのは具体的にどういう施設か。

答) 指定管理者の丹青社が提案要望する際に調べた資料だが、全国の理工系の展示・学習施設等32施設の統計をとっている。

問) 入館者について、大学生と高校生、小中学生、あるいは団体といったカテゴリーがあるが、その傾向はわかるか。また、外国人はどんな傾向があるのか。

答) まず、外国人の利用客については、これは予約及び入館時での目視のため正式なデータではないが、傾向として、ここ3年間の実績を見ると、まず、去年は、目視でカウントした人数が、約5,200人ほどとなっている。これは、入館者の1.8パーセント、あくまでも正式なデータではないが。

内訳は、中国人が約33パーセント、続いて台湾14パーセント、韓国6パーセント。全体的に言うと、アジア系の方々が80パーセント、欧米で12パーセント、あとはその他である。

中国、台湾、韓国や各アジアは、団体客が大半で、全体では、団体客の比率は70パーセント。一方で、欧米は個人客が大半である。特に団体は、専門学生、大学生を中心に、各企業体といった方々が来ている。あくまでも実数ではないので、ご了承願う。

また、お客様全体の内容だが、この4年間で団体予約が50パーセント、個人客が50パーセントで半々になっている。これは、1年目は団体客が約55パーセントだったが、昨今は個人客のほうが増えてきた。トータルでは、4年間で50パーセント・50パーセントとなっている。

また、入館者の去年の比率だが、大人でカウントしたものが75パーセント、あとは、学生と減免の方々ということになる。大人の利用が非常に多い。減免比率については、昨

年は15.6パーセント。当館では、受付レジにて詳しく区分しているが、大人が75パーセント、次に小中学生が11パーセント、未就学が8パーセント、あとはその他ということになっている。

問) なぜ聞いたかというのと、今日、私どもが来たときに、高齢者がやっぱり多いなと感じた。特に平日のこういう時間帯で高齢者も多いかなと。こういうときにやっぱり、高齢者が疲れて、どこか休みたいとか、高齢者なのでまさかのことがあって救急車を呼ばなきゃいけないとか、そういうことも出てくると思うので、万一のときにはそういうことも考えてやっていただきたいということ。

もう1つ、最後に、先ほど副委員長の話で都留市の道の駅との連携というのがあったが、こういう立派なパンフレットに写真が載っていて、富士急ハイランド、県立湧水の里、ゆめソーラー館やまなし、県立科学館、こういったものを、リニアとあわせて体験しようというふうに書かれている。

例えば、よく観光地に行くと割引券が置いてあるが、ここの連携で誘客のためそういうことはやっているのか。それとも今後、計画があるのか。

答) 我々は、大阪、名古屋、東京の六本木で定期的な観光商談会と、あわせて旅行会社へ個別訪問をしている。その際に必ず「道の駅つるをご利用ください」ということで、パンフレットをつくり、道の駅つるを紹介している。

このセンターでは食事をとるところがなく、これが当センターの弱み。当初、食事をとるところをつくろうと思ったが、道の駅つるができるということで、お互いに客の奪い合いをしてはいけないということでつくるのを見合わせた。特に食事処を含めて、地元の野菜等がごございますよという触れ込みを、必ずするようにしている。

また当センターでは、広報として有料媒体等も活用している。例えば全国版のるるぶやまっぷるなどの旅行雑誌にも掲載させていただいているが、これらにも必ず道の駅つるの場所と案内をするようにしている。さらに連携を強めていきたい。

問) すばらしい施設だと、私も認識している。ここ1点だけじゃ、やっぱりもったいない。それを線にして面につなげる努力をさらにしていただきたい。

問) それぞれ3つのリーフレットを見て、この見学センターを訪れてみて、体感したいな、特に日本を体感したいなとなるが、今後の話として、見に来ました、走る姿を見たかった。でも、乗れないかなという要望は、たくさんあるのではないのかなと思う。特に、例えばインバウンドで、中国、台湾、韓国が相当ウエートを占めるということだが、その方々が、見に来るだけで満足するのかなということがあるのかなと思う。

例えば、やがて10年先だと思うが、開通する前に、体験できるのかどうか。これは極論を言うと、例えば、雛鶴トンネルのところから甲府まで部分開業できたらいいのかなとかという、そういう夢が、実は山梨県民にあるかと思う。体験したい、冥途の土産に乗りたい、そういったことはあるかと思うので、今は当然お答えできないと思うが、いつか乗ってみたい、開業する前に乗ってみたい、あるいは、こちらに来たらリニアに記念乗車ができるとか、そういうことがあったら、客寄せパンダになるのかなと思うが、いかがか。

答) ご案内のとおり、県民向けの体験乗車を実施している。平成27年5月の第1回から、現在10回を数えている。通算すると平均倍率が17.5倍で、非常に高い。

このような状況の中でも、皆さんにできるだけ乗っていただきたいが、何しろこの高倍率である。JR東海にも強く要望し、その機会をふやすようにしてまいりたい。

問) 7月の頭に台湾の高雄市と友好議会の締結をするが、昨年7月にも訪問し、ライオン

トラベルといった台湾の大手の会社を訪問させていただいたとき、体験をしたいという要望があった。乗ってみたいという話は必ず出てくると思うので、ぜひ、こちらに来て見たいというよりも、乗ってみたいという要望にお応えできるときが来るのかどうか。いかがか。

答) ご指摘のとおり、国内外を問わず、いろいろな方から、ぜひ乗ってみたい、乗らないと良さがよくわからないというお話は、たくさん頂戴している。

しかしながら一方で、今、山梨県の沿線地域、笛吹市から早川町にかけての沿線地域の住民の皆さんに、まず乗っていただきたいという要望を、知事から強くしているところであり、それが、今年度何とか始められるかどうかという状況である。

まずはそちらを最優先で、JRに実施してもらうように努力し、その先、将来的にはもちろん、いろいろな方のご要望にできる限り応えられるように、乗っていただける人の幅を広げていく努力を精一杯続けていきたいと考えている。



※説明、質疑の後、リニア見学センターを視察した。

(2) 【山梨県立富士北麓公園】 (富士吉田市)

○調査内容 (主な質疑)

問) 公衆無線LANの運用経費はどのようになっているか。

答) 運用経費は、年間約950万円。中身は、インターネットのプロバイダーの接続料と通信経費、それからデータセンターの利用料、それから、通信機器が正常に動作しているかどうかの24時間監視、通信機器の保守に関する経費で、月額約80万程度ということになる。

問) 全額、県費か。

答) 県費である。

問) セキュリティーについて、先ほどの説明で、青少年を含めて、インターネットにつながる時に制限があるということだが、どのような形で制限されているのか。

答) データセンターに、フィルタリングシステムを置き、例えば、高校にも設置しているので、アダルトや違法薬物など有害サイト、プロバイダーの業者のほうでそういったサイトを色分けしている。そこに引っかかるサイトは閲覧できないシステムになっている。

問) 利用者の認証の拡大について、メールとフェイスブックによる認証があるということだが、その認証方法の拡充についての今後の対応予定は、いかがか。

答) 認証方法は、今はメールアドレスとフェイスブックだけだが、今回追加整備をするに当たり、ツイッターとLINEのIDでも認証できるように拡充していきたいと考えている。

問) LINEは無料ということもあり、利用価値がすごくあるのではないかと思う。あと、災害時の利用について、利用の手順として接続方法を説明していただいたが、災害時の切りかえは具体的にはどうするのか。

答) 災害時は、認証を飛ばして、誰でも自由に、時間制限もなくできるような運用に切りかえる。それに当たり、昨年9月1日に、情報政策課の防災訓練の一環として、9月1日の午後半日、切りかえの手順の確認を行った。

問) 山梨県のこのFree Wi-Fiが、どのように利用されるかという、PRというか、どんな形で今後使っていくか。

答) PRについては、Free Wi-Fiを利用できる場所では、壁にロゴマーク・案内板を表示したり、運用当初は県政広報番組、知事の記者会見をやって周知したほか、現在、ホームページで利用案内をしている。

そのほか、アプリの開発業者と連携し、Wi-Fiスポットがどこにあるかを示すアプリの開発業者に、山梨県Free Wi-Fiのロゴマークの使用を認め、そのアプリを通じ、その場の近くにいればすぐ探せるといったアプリを、今、開発中である。

問) 今のお話は非常に重要なことだと思うので、今後とも広く、多くの方にもわかるようにしていただきたい。

問) 整備場所の一覧表があるが、少し場所が偏っていないか。今後、どういう計画があるのか。平成30年度がここに出ているが、どういう基準でここに出しているのか。

答) 県立高校や、ほかの場所につきましては、基本的には市町村で指定避難場所、緊急避難場所に指定された県有施設である。市町村は多分、避難場所をたくさん指定していると思われるが、その中で、県が施設を管理しているところを中心に、全て拾ったものである。

問) 私が言っているのは、この峡北方面の端の北杜高校が入っていない。韮崎の合同庁舎も入っていないし、ちょっと偏っているのではないかと見ています。

答) 防災の関係で、北杜高校やご指摘のあった場所が、市町村によって指定避難所ということで指定されれば、県としてもそこは整備をしていきたいと考えている。

問) でも、県有施設を中心と言わなかったか。おとといもたまたま水防訓練をしたが、北巨摩方面は水の部分で非常に危険な場所である。細かいソフトのほうはいいが、基本的なものが少し偏っていないか。これからの整備計画があるなら別だが。

答) 北杜市は、県の施設を指定避難場所に使っていないということだが、これを改めて指定避難場所なり、避難所に指定するというのであれば、県としても、県の責任としてWi-Fi環境を整備していきたいと考えている。

問) ここは県なのだから、県が積極的に進められる場所というのは幾つかあるだろう。それが入っていないというのは、いかがなものか。また積極的に説明を求めるが、まあ、ここはいい。

答) ご指摘のことを踏まえて、県民の安全安心の確保のために検討していきたい。



※説明、質疑の後、富士北麓公園を視察した。